

幻想剪画 白鷺の城

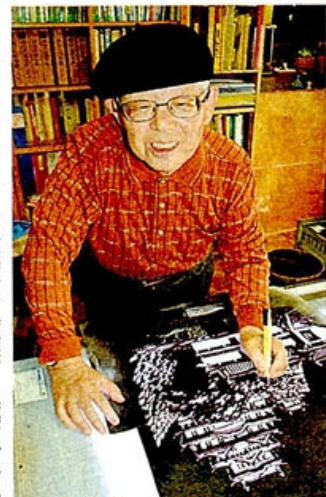
あすまで 小坂さんアート展



切り絵の一種「剪画」に30年以上取り組むグラフィックデザイナー小坂通泰さん(77)は姫路市市之郷1丁目Ⅱが、「白鷺の城ふたたび」と題した剪画アート展を姫路市本町のイーグレヒ



めじで開いている。「平成の大修理」を終えた姫路城大天守を祝う企画。画集も販売し、世界文化遺産の美



小坂通泰さん＝姫路市の自宅

満喫する趣向だ。10日ま

で。展示しているのは、小坂さんが地元の文化雑誌「Bancul(バンカル)」の「季節の扉」に寄せてきた剪画から選んだ作品など約60点。城の雄大さが迫る大型びょうぶ「飛翔」(複製)も公開。播磨国総社の御門でも15日まで、播磨国風土記を題材にした剪画12点を主に紹介している。

小坂さんは現在、日本剪画協会副会長。1967年にグラフィックデザイナーとして仕事を始めた後、剪

画「白鷺の城ふたたび」

「花の香りに」

いすれも小坂さん提供

画の道へ。カッターナイフで紙を切り抜き、姫路城の造形美を見せるためデフォルメの技法も用いる。姫路城の別名・白鷺城の由来となった白鷺が天守群を背景に舞い、天女と大天守の共演した作品など作風は幻想的だ。

小坂さんは今も城内を歩くと、建物の形や石垣の積み方に魅了されるといい、「戦いの砦に美的感覚を取り入れた面白さ、不思議さを感じる」と話している。

アート展は入場無料で画集は3千円。問い合わせは小坂さん(079・281・8629)へ。

(藤井匠)